

大改築港第壹碼頭繫船岸及住友倉庫陸上設備圖

断面図

ストーリー

前編：草創期の60年（1900-1960年）

社会環境デザインを拓く、日建設計のDNA

日建設計は、日本の近代化と共に歩んできました。
自分たちのビジョンの実現や、先駆者になることよりも、社会の要請に応えることを目指してきました。
時代が必要とする「用」があり、それに応える「プロジェクト」に挑み、社会へ「貢献」する。
そして、結果として先進的な成果を残す。それが日建設計の変わらない姿です。

画像提供：住友倉庫

正面図

民間活力で都市間競争力を高める

1970年、日建設計工務株式会社は「株式会社 日建設計」に改称しました。
シンクロするように、この年から日本の社会や技術がビッグバンのように拡大を始めます。

1972年には日本列島改造論が提議され、都市改造と地方都市の整備が進められました。

それにより国内の各都市が新たな展開を求め動きだします。

こうしたなか、日建設計は、

日本第二の都市である大阪をさらに発展させるという「用」に応え、

「大阪ビジネスパーク（OBP）」の「プロジェクト」を担いました。

官ではなく、土地所有者と日建設計が事業を主導。

民間活力を活用するモダルプロジェクトとして位置づけられ、

民間主導型開発事業の先駆けとなりました。

民はもちろん官に至るまで、多くの人々との出会いと関係者の強い意志、

そこから生まれた信頼の積み重ねによってまちづくりは成功し、

大阪の経済発展に「貢献」しました。



「大阪ビジネスパーク 1970年代～」

民間主導による約26haという大規模な土地地区画整理事業。

日建設計は竹中工務店や横文彦氏とともにOBP計画1969を提案
1970年代からは、立場や専門性の垣根を超えたコラボレーションで都市開発に貢献している。

撮影：フォト共同プロ 樋口尚俊

